

増穂登り窯との出合い

ます
ほ



撮影：吉田すみ子

陶芸をやってみたい
と思ったのは、印刷会
社に勤め始めて4年
目、20代後半だった。



1993年1月15日、炭化窯の初窯焼成にて、故・池田満寿夫氏（右）と。登り窯、八方窯等でも池田氏の作品焼成を手伝った

燈・表紙作品参照)が半数だ。陶燈は、あかりを点けた時と点けない時で雰囲気がガラッと変わる。作陶している時には想像できない世界が広がる楽しみがあるので、今まで作陶を続けてこられたようと思う。

1993年に累手で成登りした。以前から太田氏と親交のあった池田満寿夫氏は、薪窯焼成に魅力を感じ、太田氏に積極的に協力した。池田氏は、薪窯で炎により作品に裏表が出来ることを嫌い、八方窯をはじめ、四方八方から薪を投入し、窯内に炎を滞留させる窯構造を実現した。従来の穴窯でも、焼き上がりが気に入らなければ配置や向きを変えて2度3度と焼成し、その度に窯出しのワクワク感を味わえる。

●はやし・まさほ
喬木村生まれ。多摩美術大学卒業。大日本印刷株式会社に入社後、生活用品や宇宙実験で使う2剤混合注射器等の製品開発及びパッケージデザインを幅広く担当。開発に伴う特許1700件余登録。1998年JPI「通産大臣賞」、2008年JPI「連合会長賞」、2010年JPI「ジャパンスター」(社)日本包装技術協会会長賞等多数。

喬木村生まれ。多摩美術大学卒業。大日本印刷株式会社に入社後、生活用品や宇宙実験で使う2剤混合注射器等の製品開発及びパッケージデザインを幅広く担当。開発に伴う特許170件余登録。1998年JPI「通産大臣賞」、JPC「連合会長賞」、2000年JPI「ジャパンスター」(社)日本包装技術協議会会長賞」等多数。

趣味の陶芸では、1991年焼き締め陶展(岡山)入選、2007年八方窯の現在展池田満寿夫美術館賞等。2018年「冬のあかり展」(ギャラリー六斎/富士川町)、2019年「十人十色展」(麻布十番ギャラリー)等。

「ギコンテスト」で大賞を受賞したのを機に、コンテストを企画していた太田治孝氏から、山梨に薪窯まきがまを造るので参加しなさいと誘われた。現地は、数トンの岩が転がる荒れた傾斜地だったが、毎週末現地に通って、薪作りや窯場の屋根作り等を手伝った。翌年、3室の登り窯と工房が出来て、増穂登り窯がスタートした。

私の作品は手びねり（紐状にした粘土を積み上げていく方法）で作り、半乾き状態で孔を開けるものと、たたら板（板状にした土）を半乾きにして折り、断面を外側に向けて積み上げる「透かし積み」と呼んでいる手法で作った陶あかり（陶

30年間に、8つの窯で570回に及ぶ焼成が行われた。池田氏は1997年に亡くなつたが、八方窯は維持され、2022年に焼成を予定している。